

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

通常の学級に在籍する学習障害の傾向がある生徒A(中学校3年生)が、通級による指導を活用しながら学習を行っている事例である。

生徒Aは、書字において誤字、脱字が多く、バランスの崩れた字を書く。また、授業での発表などの咄嗟の発言になると言葉が出にくかったり、詰まったりする。指示や説明が複雑になると理解できず、指示から行動が遅れたり、グループでの話し合いについていけなかったりする。また、授業中に注意散漫などときがある。

B中学校では校内委員会で検討の上、C市の巡回相談を活用し、通級による指導を開始した。C市内のD中学校に配置されている通級による指導担当教員により、週1回、巡回指導を行っている。通級指導教室では、手の巧緻性を高めるトレーニングやビジョントレーニングを行っている。通常の学級では、数学・英語の授業において特別支援教育支援員による支援を受けている。

A生徒は、校内での支援及び通級による指導の結果、書字が整い、大きな声で発表できるようになるなど、大きく成長している。

1 対象生徒の障害種

学習障害(LD)

2 障害の程度

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

中学校・通級による指導

4 学年

中3

5 対象生徒の実態

生徒Aは、中学校入学後、板書を写すのが難しいことや書字が乱雑であること、整理整頓が苦手であることが目立った。問いかけなどに対して返答することはできるが、言葉が出るまでに時間がかかり、会話を詰まることがある。また、自信がないことに対しては声が小さくなったり、言葉に詰まったりする。発達検査の結果、言語面で困難さを抱えていることが明らかになった。

学校生活では、休み時間は友達と談笑するなど、リラックスして過ごしている。高等学校進学を希望している。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

保護者より学級担任へ、別室での指導や放課後の個別指導を希望する申し出があった。しかし、B中学校の人的配置では困難であるため、学級担任より保護者へ通級による指導の巡回指導を提案し、保護者より希望する申し出があった。A生徒の通級による指導開始に当たっては、B中学校の校内委員会にて検討後、C市教育委員会に申請をし、D中学校に配置されている担当教員による巡回指導を開始した。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎⑤ 施設・設備の整備

C市では、全中学校にコンピュータ室を整備している。A生徒は通級による指導においてパソコンを使用することから、通級による指導はコンピュータ室で行われている。

基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置

C市においては、小学校2校、中学校1校に通級指導担当教員を各1名配置している。
また、C市では、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒の支援のため、市内全ての小・中学校に非常勤の支援員を各校1名配置している。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

A生徒の座席は支援員が支援しやすいように、教室の後方などに配置している。
A生徒は整理整頓ができず、机やロッカーに提出物をため込むため忘れ物が多かった。そのため担任は、終礼終了後、連絡帳とTo-doリストを確認し、鞆の整理や宿題を進めるなどの個別指導を行った。また、机の中に入れて置いて良い物を具体的に示し、その他の物は入れないように整理整頓を促している。

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

社会の授業では、板書量を減らすためプリントを活用した授業を行っている。
また、B中学校の土曜学習では学校の課題だけでなく、塾の課題や生徒独自の課題に取り組んでも良いので、既習範囲の学習にも取り組むことができる。保護者と学級担任の話し合いの下、A生徒は土曜学習に参加し、学校の課題や苦手な単元を学習している。また、家庭でタブレットを使用して学習していることから、土曜学習でもタブレットの使用を認めている。

9 成果と課題

<成果>

通級による指導開始後は、スモールステップでの課題設定により達成感を得て自信に結び付き、自己肯定感が高まった。通級による指導開始当初は、通級指導担当教員に話しかけられても、すぐに話すことができず、手を振りながら小さい声で話していたが、2学期中頃からは少し離れた所にいても、はっきりと聞こえるくらい大きな声で話すことができるようになった。

<課題>

生徒Aについて、支援の方向性を把握するため、中学校入学後に丁寧に時間をかけて実態把握を行い、支援をしてきた。その間、生徒Aの可能性を狭めたことは否めない。生徒Aの不安感やつまずきを特別支援の視点を持って丁寧に把握した上で支援をし、進学先に引き継ぐことが重要である。